

関東同窓会会報 100号発刊を迎えて（1）「上田ゆかりの偉人」たち

関東同窓会会長 上原 昇（2組）

3年前、関東同窓会の会長を引き受けて、この6月末でようやく任期満了となる。

コロナウイルス騒動で今年の同窓会総会は中止となり、イレギュラーな形での交代は残念だが仕方がない。この3年間、同期の皆さんには、私（上原）と副会長の原田義則君（3組）を応援していただき有難うございました。

関東同窓会ではこれまでずっと年2回、会報を発行しており、今年の6月1日付けがちょうど100号となる。創刊は昭和44年（1969年）だから半世紀の歴史を刻んできた。会長は会報発行人でもあり、内容については全責任を負っているので大変だ。もちろん、編集長がいるので、原稿作成や編集はお任せだが、どんな内容を載せるかは、いつも私の関心の中心にある。

同窓会報だから、同窓会の活動や同窓生の活躍、母校の現況などが中心となるのは当然として、中には読みものとしてシリーズ化している記事がある。

一つは「上田ゆかりの偉人」で、まさに上田に縁のある偉人たちの評伝である。もう一つは「うえだ人」で、これは今活躍中の同窓生を取り上げている。

この欄をお借りして、二つのコラムについて、2回に分けて紹介してみたい。

「上田ゆかりの偉人」シリーズは、平成24年（2012年）から始まり、今回で18人を数える。上田縁なので、上田（その近く）出身、上田高校（中学）卒業（入学）の人が多いのは当たり前だが、中には変わった縁の人もいるのが面白い。

初回は幕末の上田藩士で開明的な兵法学者として知られる赤松小三郎。2回目は世界初の人工がん実験に成功したにもかかわらずノーベル賞を逃したことで有名な山極勝三郎博士。3回目は農民美術指導者の山本鼎（執筆したのは同期の神田愛子さん（10組））と続き、順当な人選といえる。

その後は、芸術家、作家、実業家等々、多士済々の偉人たちが登場する。

ちなみに、平成27年（2015年）6月発行の90号には、丸子の製糸結社「依田社」を作った下村亀三郎について、同期で丸子出身の中山正光君（11組）が書いている。

私が会長時代の6名は以下の通り。95号小宮山量平（編集者、作家）、96号石井鶴三（画家、彫刻家）、97号小川栄一（実業家）、98号池波正太郎（小説家）、99号川村吾蔵（彫塑家）〈これは私（上原）が取材執筆〉。最後となる100号では小諸出身の洋画家で文化勲章受章者の小山敬三を取り上げた。この6人のなかで母校同窓生は小川、川村、小山の3氏で、石井と池波は上田（長野県）生まれではない。

会報の内容は、関東同窓会ホームページに全号が掲載されているので、興味のある方は検索してご覧ください。執行部が変わって会報の中身もどう変わるかは分からないが、このシリーズが続くとしたら、次はどんな偉人が現れるか楽しみに待ちたい。

（2020年5月3日）

